

沖繩作戦三於心  
第三十二野戦貨物廠史実資料

昭和三十三年三月二十五日  
第三十二軍技術整理部

目次

第一

貨物敵ノ行動概要

第二

戦斗経過ノ概要

第三

各支(出張所)敵概要

一 部隊行動ノ概要

一 第一三三軍野戦貨物敵ハ昭和十九年八月一日  
 東京方面ヨリ、臨時編成部隊トシテ編成ヲ  
 命ゼラレ、同年八月十日滿洲國新京市大房身ニ於テ  
 編成ニ着手、同月十五日編成(假令第一三三軍野戦貨物  
 敵(中)ニテ完結セリ。  
 二 爾後貨物敵ハ新京ニ在リテ作戦並ニ戦運準備ニ放  
 射、訓練ヲ実施シ、アリシガ九月五日沖繩第一三三軍野  
 下部隊ニ編入、同月七日同日、東京ニ於テ先發隊  
 (八〇名)ヲ釜山鎮ニ派遣シ、乘船也。於テハ乘船準備  
 ヲ実施セシメタリ。  
 九月十五日部隊主力ハ新京ヲ出發シ、同月十七日  
 釜山鎮ニ到着セリ。

3. 釜山ニ於テ一部先発部隊ト合シ乘船準備ヲ実施中ノ  
 處諸物資及心携行軍需品ノ積載準備完了シ同年  
 九月二十三日以降散船ニ分乘釜山港ヲ出帆沖繩ニ向テ  
 本航ニ途中船団編成ノ九州西海岸内司馬島等ノ  
 島水道有明灣中津島鹿兒島灣等ニ於テ待機シ  
 十月二十五日敵潜水艦ノ攻撃中ヲ強行突破シ那  
 霸港ニ上陸同日暮三十三軍ノ襲下ニ入ル  
 又貨物廠ノ業務開始  
 貨物廠ハ上陸直後直ニ左記ノ如ク本部並ニ支廠出張所  
 ヲ開設シ本島駐在各部隊ニ對シ軍需品ノ供給自積被服  
 給養器具ノ移動修理及運送品ノ開始困難ナル狀況  
 三船ニ現地自若ク多ク諸生産ヲ開始ス

名 稱	開設年月日	場 所	摘 要
貨物廠本部	昭和五年十月三日	津島山	
被服移動修理廠	"	那霸	
給養器具移動修理廠	"	"	
勤務中隊	"	"	
總島出張所	同年十月三日	總島	警備隊長ニ既屬
先島支廠	十月八日	宮田	三ノ八師團長ニ既屬
嘉手納支廠	十月十七日	嘉手納	本廠直轄
渡久地支廠	"	渡久地	"
名護支廠	十月一日	名護	"

十二月一日嘉手納支廠ヲ出張所ニ渡久地出張所ヲ名護  
 出張所ト改稱ス

左記

摘要

5. 貨物廠・貯蔵廠と産運ノ業務概要

貨物廠開設後、主カヲ以テ本島駐在各地隊ニ対シテ補給ニ任セ  
 上共ニ追送品ノ到着僅クナル現況ニカキテ現地自若ノ散居ニ努メ  
 取斗シ諸生産ヲ実行シ、給養確保ニ廠長以下全員奮斗  
 ヲリ、即チ追送軍需品、主トシテ那覇港ニ揚陸セラル。ラ以テ  
 撤官之カ揚陸スルト共ニ作戦準備ノ多ク、分散集積格納ニ又總  
 島官古等各本張所ニ追送品ヲ送送尚又作戦準備ノ多ク  
 衛諸設備ノ実行等晝夜兼行ノ取斗ヲナセリ。  
 軍、給養確保ノ多クニ要スル諸生産ノ大要左ノ如シ。

(1) 食品

蘇鉄粉、塩、肉、味噌、醬油、虎耐、シカ、サ、酒  
 金、玉、ドロ、ソ、ア、ス、サ、イ、ク、ア、塩、魚、塩、佃、煮

(2) 水産

本島周辺ノ漁撈

無頭左ノ如シ

職務本部

第一大隊

第一中隊 (貨物廠本部人員充當)

第二中隊 (勤務中隊)

第三中隊 (陸上勤務第七中隊)

第四中隊 (第二夜眼移動修理班)

第二大隊

第一中隊 (第一夜眼移動修理班)

第二中隊 (第三夜眼移動修理班)

第三中隊 (給養係移動修理班)

本島駐在各地隊ニ対シテ補給ニ任セ、即チ追送軍需品、主トシテ那覇港ニ揚陸セラル。ラ以テ撤官之カ揚陸スルト共ニ作戦準備ノ多ク、分散集積格納ニ又總島官古等各本張所ニ追送品ヲ送送尚又作戦準備ノ多ク衛諸設備ノ実行等晝夜兼行ノ取斗ヲナセリ。軍、給養確保ノ多クニ要スル諸生産ノ大要左ノ如シ。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

- (3) 輸送 荷車一千台製造
  - (4) 飼養 養豚 養鶏 乳牛
  - (5) 製作 漿衣 湯呑 代用担架(五)。但製木(代用石炭)
  - (6) 各出張所ニ於テハ配属部隊ト連繫シ本廠目標業務ヲ美
- 施シ軍給与確保シテ可長以下努力取平也。

戦斗経過ノ概要

昭和三年三月二十三日 南島諸島諸部隊ニ対シ甲号機備ヲ下合ス。

要屬也又我軍敵軍不利ト云々更ニ致勝本朝ヲ得ル至力  
(第一第三)大隊、24D、62D、兩師團ニ既屬派兵ト加入セタリ  
軍一敵軍利アリト云々島九南端地ニ取連ニヤ取勝本朝人自  
ハ二十四師團長、指揮下ニ入リ各部隊ニ既屬ニ然敵ニ至ニ予  
勇敵奮平良ク全負玉陣セリ

偵物敵ノ行動概況左ノ如シ  
二十三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
部隊ハ敵機動部隊下ニ集結ス所謀ニ全カテ傾倒ス  
敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
津嘉山附近ノ既備ニシテ  
津嘉山附近ノ既備ニシテ

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
津嘉山附近ノ既備ニシテ  
津嘉山附近ノ既備ニシテ

要屬也又我軍敵軍不利ト云々更ニ致勝本朝ヲ得ル至力  
(第一第三)大隊、24D、62D、兩師團ニ既屬派兵ト加入セタリ  
軍一敵軍利アリト云々島九南端地ニ取連ニヤ取勝本朝人自  
ハ二十四師團長、指揮下ニ入リ各部隊ニ既屬ニ然敵ニ至ニ予  
勇敵奮平良ク全負玉陣セリ

偵物敵ノ行動概況左ノ如シ  
二十三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
部隊ハ敵機動部隊下ニ集結ス所謀ニ全カテ傾倒ス  
敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
津嘉山附近ノ既備ニシテ  
津嘉山附近ノ既備ニシテ

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
津嘉山附近ノ既備ニシテ  
津嘉山附近ノ既備ニシテ

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
津嘉山附近ノ既備ニシテ  
津嘉山附近ノ既備ニシテ

二三日二十三日 敵機動部隊ハ豫メ甲号敵南上合  
津嘉山附近ノ既備ニシテ  
津嘉山附近ノ既備ニシテ

五月十日取隊、五城、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月十日取隊、首領、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月十日取隊、首領、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月十日取隊、首領、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月十日取隊、首領、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月十日取隊、首領、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月十日取隊、首領、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月十日取隊、首領、知念佐政村、注民中十吉才以上  
二十才迄三十才、在任スル青北軍、臨時召集、

五月二十日 第一大隊、石嶺線に於て敵の良き重運を自隊  
 奮斗中ナリシガ大隊長 鈴木少佐ハ北山に敵死  
 ラシト橋本大尉大隊長代理トシテ更ニ敵線ヲ死守  
 セリ第一大隊ハ大隊長以下大半、損傷ヲ方ハレシ  
 五月二十日 敵ノ南下愈々急激ニシテ一隊隊本部ハ止ムナク  
 目取直ニ取進ス  
 五月十八日 第一隊本部ハ右命令ニ基キ高平ニ前進死守ス  
 五月二十日 第一隊本部ハ右命令ニ依リ更ニ目取直ニ取進ス  
 五月二十日 石嶺南方一。米地区ニ於テ激斗中ナリシ第一  
 大隊ハ三十夜隊命令ニ依リ  
 第一隊本部ハ島尻地区取進シ多量収容部隊トシテ  
 津嘉山ニ取進ラ命セラレ津嘉山ニ於テ中地島  
 トシテ陣地ヲ占領ス  
 独逸連射砲一丁中隊既属ナル。

六月一日 取隊ハ状況上國場嶺部南嶺ヲ命シ嶺部西米  
 一。依揚口糧五。獨尋長五。獨毛布一。獨  
 靴三。獨救急食三。獨有保品五。獨ヲ在座區  
 國場嶺部南嶺入口ヲ爆破閉鎖處理シ人員ハ津  
 嘉山ニ集結ス。

六月二日 津嘉山地区ニ陣地百嶺中第一大隊ハ六月一日以降  
 敵ト激戦中ナリシガ二日ニ於テ以降國場嶺線ニ取進  
 シ命セリ。國場嶺部南嶺人員十名ハ津嘉山ヲ  
 島尻地区ニ安里ニ取進シシ管帶田中トシ糧食ヲ  
 二日間人力搬送ニテ実施ス  
 首里北方地区ヨリ六月一日伊敷線ニ取進シ命セ  
 ラレ取進ス  
 六月三日 國場嶺部人員ハ糧食ニ乏シ地事勢西シ人力搬送ニ  
 于安里ニ輸送中ニ是取隊ノ命令ニ依リ米嶺ニ至リ



六月四日

取隊本部ト合シ補給部ノ編成ヲ解ク  
軍備倉庫ニ依リ貨物廠ノ解散ヲ命セラレ貨物廠本部  
ノ人員ハ各々第百四師同並ニ独立混成隊由ラシ  
田ニ取属ス又第百二十二師團ニ配属中ノ第百三大隊  
ハ各々配属部隊タルヲ第百三師團ニ取属ス  
而シテ貨物廠ノ取属人員ハ各々取属部隊人員ハ各  
取属部隊ニ於テ小隊長トシテ山崎長尾武彦  
又仁國志真榮里附近ノ戦ヲ参加シ善戰隊ヲ  
セリ。

六月三日  
以降ノ第百二十二師團玉碎ニ伴ヒ貨物廠人員ニ森  
敏斗ニ於テ大半戦死セルニ更ニ残存人員ハ前記  
ヲ取行シ總員若シト玉碎セリ。

### 各出張所ノ概況

一名獲 嘉平納出張所

兩出張所共ニ所在地各部隊補給ニ任ジアリシ中第百  
戰備下ノ兵士共ニ各出張所ヲ用領シ人員資材トモ三月  
二十五迄ニ輸送ヲ完了シ出張所ノ編成ヲトキ各本部  
内ニ編入作戰ニ参加セリ。

二 德島出張所

德島出張所ハ昭和九年十月出張所本部ヲ德島東大  
村ニシテ德島及中水良部ノ補給ニ任シ又吉仁屋ニ  
本出張所ヲ設置シ大島本島及喜因島ノ補給ニ任シ遠送補  
給ノ困難ニ鑑ミ現地資源ノ利用ハ徹底ニ努メ現地自活ニ  
向テハ二期以上ノ成果ヲ收メタリ現地自活ノため探り所  
置概要左ノ如シ

1. 主食 米諸 耕作 耕作ニ努ム  
 2. 牧畜 牛及山羊  
 3. 漁撈 漁撈隊ヲ漁獲ニ努ム  
 4. 製造 和紙、製糸、オムシ草  
 現地自活ニ就テ、成果見ルルヤモ、アリテ配属兵団長ヨリ  
 向人賞詞ヲ授ケラレシ。  
 奉 敵斗開始セラルヤ、良ク兵団上連繫シ、軍需品ノ  
 補給ニ任スルト共ニ作戦ニ参加島時防衛ノ任務遂行  
 中終戦ニ至ル。

三、先島支廠

先島支廠ハ昭和十九年十一月八日沖縄本島ヨリ宮古ニ到  
 着支廠本部ヲ宮古ニ石垣島ニ本張所ヲ置キ配  
 属兵団ト密接ニ連繫シ、部下各部隊ニ対シ、進送軍  
 需品ノ補給ニ任ジ進送品ノ補給困難ナル状況ニ至リテハ  
 現地資源ノ徹底利用、生産、漁撈、加工等、諸物資  
 ノ獲得ニ努メ、給養確保、タメニ終戦ニ至ルマ  
 デ支廠長以下全員奮斗努力セリ。  
 現地自活ノタメニハ、焼酎、空中勤務者其他用、餵頭  
 製氷等ヲ実施セリ。軍、敵斗開始セラルヤ、良ク配属  
 兵団ト連繫シ補給ノ任務ヲ果スト共ニ作戦ニ参加良  
 ク島時防衛ノ任務遂行中終戦ニ至ル。

配備要圖

八月十八日

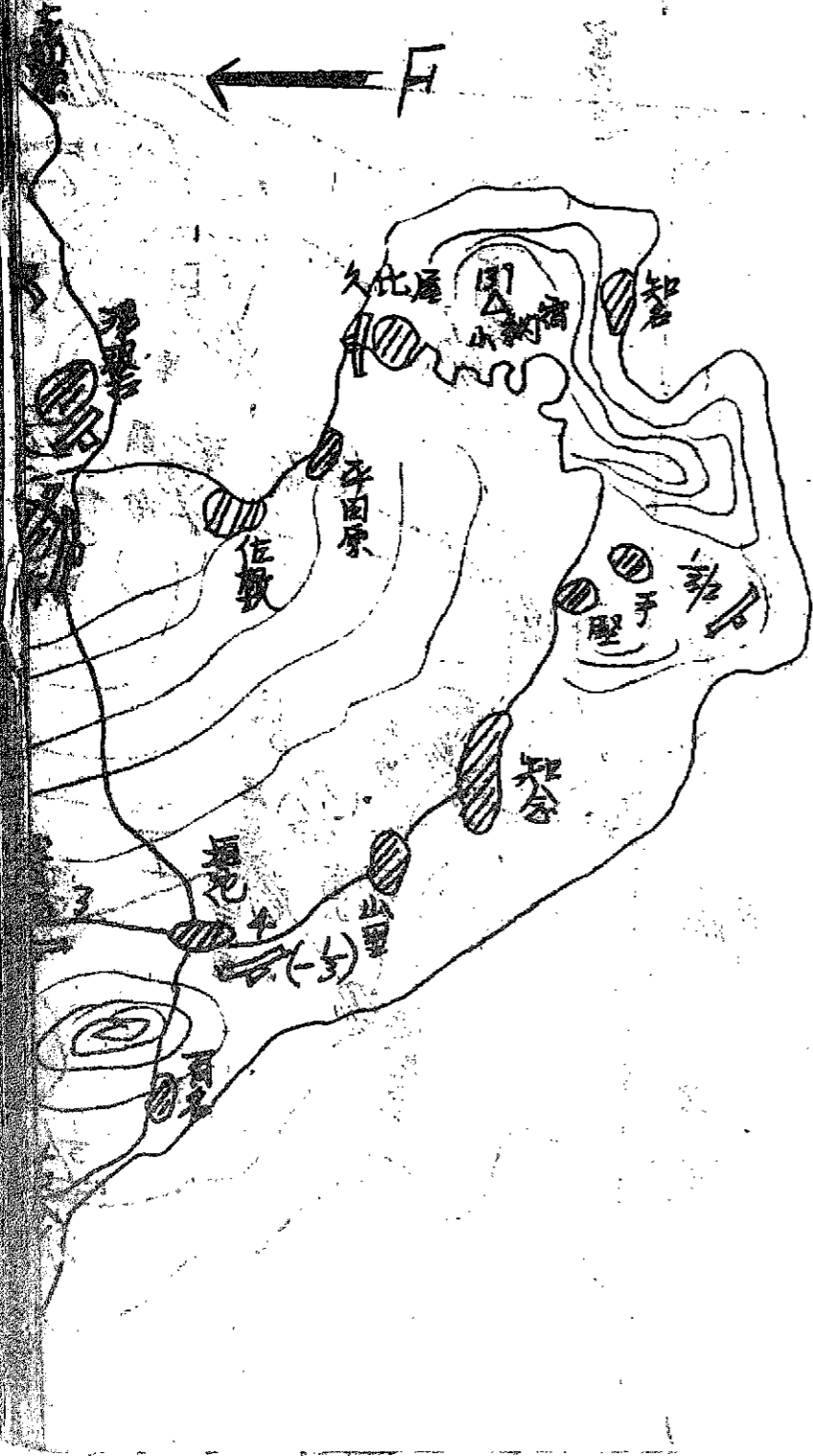


別紙第一

左部原

The right page of the notebook is mostly blank, with some faint, illegible markings and smudges. There are some very light, scattered characters that appear to be bleed-through or very faint handwriting, but they are not clearly readable.

如左裝備配備要圖



別紙第三

特編第四隊警戒

昭和二十年四月

50,000

F



特備第四聯隊



特備第三聯隊